



Dominion® KX II リリース 2.0: 重要な情報

本書では、Dominion KX IIのリリース2.0.x(以降KX II)に関する重要な情報をお知らせします。ユーザガイド、ファームウェアのリリースノートから特に役に立つ部分を抜粋しています。設定・操作を行う前に、ぜひご一読ください。

本リリースでは、KX IIのローカルコンソールポートにはWindows用の109Aキーボードを使用すること、またリモートクライアントはWindows OSであることを標準としています。ローカルコンソールポートへのSun用のキーボード等の接続、またWindows以外のリモートクライアントでは、109Aキーボードに存在しないキーを使用できない場合があります。この点については、今後のKX IIファームウェアリリースで対応予定です。

KX IIの電源設定はデフォルトで「2つを使用」になっています。電源を片方しか使用しない場合、フロントパネルのLEDはエラーを示す赤色点灯となります。これを変更するには、“Device Settings”の“Power Supply Setup”設定を変更してください。

安定したネットワーク通信のために、KX IIとLANスイッチのSpeed、Duplex設定を一致させてください。たとえば、両者ともにAutodetect (推奨)にする、もしくは両者とも100Mbps/Full duplexにするなどです。

仮想メディアを使用するには、あらかじめ下記の条件を満たすことが必要です。(1)ターゲットサーバにD2CIM-VUSBが正しく接続されていること (2) ターゲットサーバのハードウェア、BIOS、OSがUSB接続ドライブをサポートすること (3)ユーザがKX II、ターゲットサーバ、およびクライアントPCで必要な操作権限(管理権限)を与えられていること

仮想メディアはサーバのBIOSにより、サポートされない場合があります。(！重要！)
仮想メディア機能の全てを使用できるサーバ、OSには制限があります。

- 一般的に、最近のWindows OS (Windows Vista, 2003 Server, XP, Windows 2000の最新パッチ) では全ての機能を使用できます。
- LinuxやMac OSに対してWindowsクライアントからアクセスする場合、CD/DVDドライブ、USBドライブ、ISOイメージのマウントが可能です。また、Mac, Linux, Solarisクライアントからは、そのクライアントのローカル/リモートドライブに保存されているISOイメージのマウントが可能です。
- その他のUNIX系OSでは仮想メディアはサポートされません。

仮想メディアドライブがマッピングされたBIOSに接続する際、BIOSがHi-Speed USB (HSモード) をサポートしていない場合には、KX IIの”Port Configuration”ページから“Use Full Speed for Virtual Media CIM”オプションを有効にして、ターゲットサーバをリブートする必要があります。

USB2.0の実装のされ方がBIOSによって異なっているため、仮想メディアを使用してマウントしたドライブからのBIOSレベルのブートには対応していない場合があります。

Windows OSでは、仮想メディア機能でマウントしたドライブの切断を行うために、OS側の“デバイスの安全な取り外し”を行わないでください。クライアント側で“Disconnect”コマンドを使用することが必要です。

（！重要！）Linuxで仮想メディアを使用する際、キーボードやマウスの動作に不具合が発生する場合があります。このような現象が現れた場合、次の操作を試してください。本件につき、ユーザガイドではSUSE 9.2の例を挙げていますが、その他のLinuxでも発生する場合があります。また、BIOS画面で仮想メディアが使用される際にも同様の現象が見られることがあります。この際にも同じ操作を試してください。

操作内容:ターゲット サーバ ポートの [Use Full Speed for Virtual Media CIM] (仮想メディア CIM でフル スピードを使用) オプションを有効 (オン) にしてください。BIOS配下、Linux配下の動作では、ハイスピードのネゴシエーションが行われていると仮想メディア CIM と連携しない場合があります。

“ずれないマウス”機能はほとんどのWindowsではサポートされますが、LinuxやUnixベースのOS (AIX, HP-UX, Solaris) ではサポートされません。

セキュリティ等の確認ダイアログが表示され、それが何かのウィンドウの下に隠れている場合はソフトウェアが無反応になったように見えます。実際は表示されているダイアログへのユーザ応答を待っている状態ですので、このダイアログを表示させてそこへの入力を行ってください。

KVMセッションが開いている状態でブラウザの更新・リロード機能を使用すると、KVMセッションは閉じられます。

AES暗号化の使用には、ブラウザが対応しているか確認してください。また、AESの使用を確実にするためには、KX IIの“Security Settings”の“Encryption mode”をAESに固定してください。

ネットワークの帯域使用量を抑えたい場合には、“Video Settings”の“Noise Filter”の値を大きく設定してください。この場合には画像品質が低下しますので、適当な設定を選択してください。

本リリースではモデム接続はサポートされません。今後のファームウェアリリースで対応します。

KX IIの各種設定を変更した場合には、必ず画面中の“OK”ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックした場合のみ、行った変更が保存、反映されます。

ご使用に際しての不明点などに関しましては、まず製品のユーザガイドをご参照ください。それでも解決しない場合は、製品保証書をご準備の上、弊社までお問い合わせください。

※本文中に記載されている社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。